

JCM制度プロセス② 新PIN様式の案内

2026年1月

日本政府指定JCM実施機構（JCMA）

1. 新PIN様式
2. 追加項目
3. 記入例・記入指針

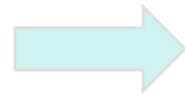
新PIN様式

PINルール対応国 : JCM HOME (<https://www.jcm.go.jp/>) の各国のRules and Guidelinesからダウンロード。

または、JCMAウェブサイト(https://gec.jp/jcm/agency/guides/about_jcm/)の各国様式を利用。

PINルール未対応国 : JCMAウェブサイトから、Other countriesを利用。

旧様式



新様式

Project Idea Note for JCM Project (Provisional Draft)

PIN reference number	(For the secretariat use only)
----------------------	--------------------------------

All the information described in this document is at the pre-implementation stage and may change as the project develops.

1. Basic project information	
1.1. Date of Submission	dd/mm/yyyy
1.2. Partner country (A host country where the planned project is located)	
1.3. Title of the planned project (Should be self-explanatory and clearly indicate the activity leading to GHG emissions reductions / removals)	

The Joint Committee makes the result publicly available, including the PIN reference number; the name of the planned project, the date of submission in the above, and the reason for objection when the Joint Committee objects to the planned project described in the PIN through the JCM website.

2. Project participants and contact information	
2.1. Representative Japanese participant for the project and its roles in the project (For identification of the person in charge for the project in terms of communication)	
Name of the entity (Company, etc.):	

JCM_F_PIN_ver06.0

Project Idea Note for JCM Project

_____ (Title of the project)
(Should be self-explanatory and clearly indicate the activity leading to GHG emissions reductions / removals)

Date of Submission: dd/mm/yyyy

Partner country: _____

PIN reference number*: _____

(*For the secretariat use only)

The information described in this document may change as the project develops.

1. Description of the project, including how the project reduces/removes GHG emissions

*Please also explain the implementation structure, such as financial structure, money flow of the project, as far as possible.

2. Reasons and rationale for implementing the project under the JCM

*Please explain why the project participants propose to implement the project under the JCM, instead of a purely commercial project. Please also describe how the proposed project provides any benefits to the partner country, given that the partner country should apply corresponding adjustments for JCM credits acquired by Japan. Please also explain how the project aligns with an eligible/positive list or relevant guidance in the partner country, if applicable.

新PIN様式の項目

1. Description of the project, including how the project reduces/removes GHG emissions
2. Reasons and rationale for implementing the project under the JCM
3. Location of the project
4. Expected Schedule of the project
5. Type and duration of crediting period
6. Expected scale of investment and financial sources
7. Applicable JCM methodology(ies)
8. Expected Mitigation Outcome (GHG emission reductions/removals)
9. Contacts

緑部分が追加された項目

新PIN様式の追加項目

- 2. Reasons and rationale for implementing the project under the JCM
→JCMとする理由、根拠。
- 5. Type and duration of crediting period
→ルール&ガイドライン改定。
- 8. Expected Mitigation OutcomeにBaU排出削減量（Optional）
→相当調整をしてもなお相手国NDCに貢献することを示す。

新PIN様式の記入例・記入指針

- まず、JCM適用基準を参照。

https://gec.jp/jcm/agency/JCM_application_criteria_ja.pdf

- 次に、JCMAウェブサイトの記入例・記入指針を参照。

民間JCM : https://gec.jp/jcm/agency/publ_JCM_XX_F_PIN_sample_private.pdf

設備補助 : https://gec.jp/jcm/agency/publ_JCM_XX_F_PIN_sample_facility.pdf

なお、JCMAでは、PIN事前相談を随時行っています。

相談先 : jcma-contact@gec.jp

新PIN様式の記入例・記入指針

1. Description of the project, including how the project reduces/removes GHG emissions

例①：A社はXXX国YYY市において、現地企業B社と協力し、ゴミ埋立地に集積された生ごみを含む一般廃棄物を活用した廃棄物発電事業を実施します。本事業では、埋立地から回収した可燃性廃棄物を焼却し、発生する熱エネルギーを電力に変換して電力会社に売電することで、化石燃料由来の既存発電を代替するとともに、埋立処分場からのメタン排出を回避し、温室効果ガス排出を削減します。A社は資金提供と技術供与を担い、B社は現地での設備運用・保守管理・モニタリングを担当します。全ての資金はA社からB社を通じて処理施設の建設・整備や運営に充当される一方、削減に応じたクレジットの70%はA社に帰属します。必要な環境影響評価や廃棄物処理許可は取得済みであり、XXX国エネルギー省および環境省との調整も進行中です。

埋立処分場からのメタン排出量、及びエネルギー起源二酸化炭素排出量については、本パートナー国においてNDC目標に含まれており、インベントリで報告されています。

JCMの手続き（方法論作成、PDD作成、モニタリング報告書作成、プロジェクト登録申請、クレジット発行申請）については、A社の責任で行います。モニタリングのためのデータ収集についてはB社が行います。

コメントの追加 [m3]: 適用する技術や対策の具体的な内容、どのようにしてパートナー国のGHG排出削減や除去となるのかを説明してください。この場合、その削減や除去が、パートナー国がパリ協定に基づいて報告するGHG排出量（インベントリ）に反映されることが必要です。

加えて、プロジェクトに関係する主体とそれぞれの役割を示す体制図を添付してください。関係する主体としては、例えば、投資企業、金融機関、EPCコントラクター、オペレーター、製品オフテイカー、JCMコンサルタント等が挙げられます。

またJCMの手続きを誰が進めるのかについても記入ください。

適用する技術や対策の具体的な内容、どのようにしてパートナー国のGHG排出削減や除去となるのかを説明してください。この場合、その削減や除去が、パートナー国がパリ協定に基づいて報告するGHG排出量（インベントリ）に反映されることが必要です。

加えて、プロジェクトに関係する主体とそれぞれの役割を示す体制図を添付してください。関係する主体としては、例えば、投資企業、金融機関、EPCコントラクター、オペレーター、製品オフテイカー、JCMコンサルタント等が挙げられます。

またJCMの手続きを誰が進めるのかについても記入ください。

新PIN様式の記入例・記入指針

**Please also explain the implementation structure, such as financial structure, money flow of the project, as far as possible.*

2. Reasons and rationale for implementing the project under the JCM

**Please explain why the project participants propose to implement the project under the JCM, instead of a purely commercial project. Please also describe how the proposed project provides any benefits to the partner country, given that the partner country should apply corresponding adjustments for JCM credits acquired by Japan. Please also explain how the project aligns with an eligible/positive list or relevant guidance in the partner country, if applicable.*

例①：【クレジット収入・補助金以外に収入がある事業の場合】

本事業の経済性評価では、IRRは2.3%、投資回収年数は17年となり、民間事業としては下方リスクもある中で事業性が乏しく、JCMクレジットがなければ事業を推進することが出来ない。JCMクレジットの売却収入を当社想定に基づき見込んだところ、IRRは5%、投資回収年数は8年となった。依然として経済性の良い事業とは言えないものの、クレジット売却収入があれば最低限の採算性を確保できる見込み。

コメントの追加 [m4]: パリ協定第6条に沿って実施するJCMでは、JCMプロジェクトによって発行されるクレジットのうち、日本側に配分されるJCMクレジット分については相当調整（パートナー国が排出量を報告する時に、同量を上乗せすること）の対象となることから、パートナー国がJCMプロジェクトを実施する際に、相当調整を行ってもなお自国のメリットになることについて理解を得ることが求められます。

当該事業がJCMを利用する理由として、事業性を確保するためにクレジットによるインセンティブ（例：クレジット収入以外に事業収益が見込めない事業であるか、事業収益が見込めたとしてもクレジット収入がなければ投資回収年数が長期化する、あるいはIRRが低く、事業の実施が困難であること等）が必要であることを説明してください。

さらにパートナー国のNDCへの貢献という観点から、技術難易度や導入量・スピードなどで特に優れている点やパートナー国内での波及・横展開のポテンシャル有無及び程度（地元企業の参画、キャパシティや技術の習得による地域産業への裨益を含む）があれば記入ください。

コメントの追加 [m5]: パートナー国において、パリ協定第6条2の協力に関して適切な活動リストやポジティブリストなどを公表している場合、提案プロジェクトがそのリストに含まれていることを説明してください。

パリ協定第6条に沿って実施するJCMでは、JCMプロジェクトによって発行されるクレジットのうち、日本側に配分されるJCMクレジット分については相当調整（パートナー国が排出量を報告する時に、同量を上乗せすること）の対象となることから、パートナー国がJCMプロジェクトを実施する際に、相当調整を行ってもなお自国のメリットになることについて理解を得ることが求められます。

当該事業がJCMを利用する理由として、事業性を確保するためにクレジットによるインセンティブ（例：クレジット収入以外に事業収益が見込めない事業であるか、事業収益が見込めたとしてもクレジット収入がなければ投資回収年数が長期化する、あるいはIRRが低く、事業の実施が困難であること等）が必要であることを説明してください。

さらにパートナー国のNDCへの貢献という観点から、技術難易度や導入量・スピードなどで特に優れている点やパートナー国内での波及・横展開のポテンシャル有無及び程度（地元企業の参画、キャパシティや技術の習得による地域産業への裨益を含む）があれば記入ください。

新PIN様式の記入例・記入指針

4. Expected Schedule of the project

Expected starting date of operation	dd/mm/20yy
Expected schedule up to the starting date of operation.	例： 05/2026 Proof of Concept study 08/2026 Submission of the PIN 10/2026 No objection for the PIN 01/2027 Methodology development 04/2027 PDD development 06/2027 Project registration 08/2027 Start of Commercial Operation (COD)

コメントの追加 [m7]: 現時点からの建設見通し及びJCM 手続きの見通しを、両者を分けずに時系列で記入ください。

現時点からの建設見通し及びJCM手続きの見通しを、両者を分けずに時系列で記入ください。
年月日の形式は例にならってください。

JCM適用基準の2. には、「排出削減・吸収を行う機器の調達を開始する日又は排出削減・吸収を行う設備の建設を開始する日のどちらか早い日より前に、**日本政府を通じて**相手国政府に事業概要（PIN：Project Idea Note）を提出していること。」という記載がありますので、余裕を持ったスケジュール立てを行ってください。

新PIN様式の記入例・記入指針

5. Type and duration of crediting period

- ☐ Fixed period of 10 years
- ☐ Renewable period of five (5) years, which may be renewed twice at the maximum
- ☐ Other (please specify: _____)

コメントの追加 [m8]: 森林系のプロジェクトや CCS 等、通常のクレジット期間よりも長い場合にこちらに記入ください。

クレジット期間は10年間固定、もしくは5年間の2回更新。

森林系のプロジェクトやCCS等、通常のクレジット期間よりも長い場合はOtherにチェックし、（ ）内にその理由を記入。

新PIN様式の記入例・記入指針

6. Expected scale of investment and financial sources

Total investment cost	<p>In national currency: XXX5,350,000 (convered by using the exchange rate of JPY/XXX for refference) In Japanese Yen: JPY802,500,000</p> <p>① CAPEX の全てを日本の A 社が負担し、A 社はそれをクレジット販売収入で回収する場合。（OPEX に関してはパートナー国の共同事業者 B 社が事業収入から支払う。）</p> <p>Total investment:</p> <p>CAPEX:</p> <table> <tr><td>-Equipment Purchase</td><td>500,000</td></tr> <tr><td>-Infrastructure</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>-Land Acquisition & Preparation</td><td>200,000</td></tr> <tr><td>-Design & Technical Services</td><td>150,000</td></tr> <tr><td>Sub total</td><td>1,150,000</td></tr> </table>	-Equipment Purchase	500,000	-Infrastructure	300,000	-Land Acquisition & Preparation	200,000	-Design & Technical Services	150,000	Sub total	1,150,000												
-Equipment Purchase	500,000																						
-Infrastructure	300,000																						
-Land Acquisition & Preparation	200,000																						
-Design & Technical Services	150,000																						
Sub total	1,150,000																						
	<p>② CAPEX の全てを日本の A 社が負担し、A 社はそれをクレジット販売収入で回収し、OPEX に関しても A 社がクレジット販売収入から支払う場合。</p> <p>Total investment:</p> <p>CAPEX:</p> <table> <tr><td>-Equipment Purchase</td><td>500,000</td></tr> <tr><td>-Infrastructure</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>-Land Acquisition & Preparation</td><td>200,000</td></tr> <tr><td>-Design & Technical Services</td><td>150,000</td></tr> <tr><td>Sub total</td><td>1,150,000</td></tr> </table> <p>OPEX:</p> <table> <tr><td>-Labor</td><td>200,000/year</td></tr> <tr><td>-Maintenance</td><td>50,000/year</td></tr> <tr><td>-Inputs & Utilities</td><td>100,000/year</td></tr> <tr><td>-Monitoring & Reporting</td><td>40,000/year</td></tr> <tr><td>-Miscellaneous</td><td>30,000/year</td></tr> <tr><td>Sub total</td><td>420,000/year</td></tr> </table> <p>Total Investment in the crediting period(10 years) 5,350,000/10 years</p>	-Equipment Purchase	500,000	-Infrastructure	300,000	-Land Acquisition & Preparation	200,000	-Design & Technical Services	150,000	Sub total	1,150,000	-Labor	200,000/year	-Maintenance	50,000/year	-Inputs & Utilities	100,000/year	-Monitoring & Reporting	40,000/year	-Miscellaneous	30,000/year	Sub total	420,000/year
-Equipment Purchase	500,000																						
-Infrastructure	300,000																						
-Land Acquisition & Preparation	200,000																						
-Design & Technical Services	150,000																						
Sub total	1,150,000																						
-Labor	200,000/year																						
-Maintenance	50,000/year																						
-Inputs & Utilities	100,000/year																						
-Monitoring & Reporting	40,000/year																						
-Miscellaneous	30,000/year																						
Sub total	420,000/year																						

コメントの追加 [m9]: パートナー国政府への参考表記として、パートナー国の現地通貨（それが難しい場合はハードカレンシー）での金額を、換算に用いた換算レートとともに記載してください。

コメントの追加 [m10]: 日本国政府による資金支援プロジェクトの場合は、支援対象経費（補助対象経費）を記入してください。

パートナー国政府への参考表記として、パートナー国の現地通貨（それが難しい場合はハードカレンシー）での金額を、換算に用いた換算レートとともに記載してください。

CAPEXだけでなくOPEXを含めて日本側の貢献として主張することも可能です。この場合は、一段上の総投資額のところにOPEXを含めた金額を説明してください。

日本国政府による資金支援プロジェクトの場合は、支援対象経費（補助対象経費）を記入してください。

新PIN様式の記入例・記入指針

8. Expected Mitigation Outcome (GHG emission reductions/removals)

Mitigation Outcome	Amount	Explanatory note <i>Please explain how those numbers are calculated and the reason for allocation.</i>																																												
A. Expected GHG emission reductions/removals against reference emissions* (JCM credits)	19,600 tCO2eq/ year (average)	例： <table><thead><tr><th></th><th>ER</th><th>RE</th><th>PE</th></tr></thead><tbody><tr><td>2026</td><td>1,000</td><td>3,000</td><td>2,000</td></tr><tr><td>2027</td><td>5,000</td><td>8,000</td><td>3,000</td></tr><tr><td>2028</td><td>10,000</td><td>14,000</td><td>4,000</td></tr><tr><td>2029</td><td>15,000</td><td>20,000</td><td>5,000</td></tr><tr><td>2030</td><td>30,000</td><td>40,000</td><td>10,000</td></tr><tr><td>2031</td><td>30,000</td><td>40,000</td><td>10,000</td></tr><tr><td>2032</td><td>30,000</td><td>40,000</td><td>10,000</td></tr><tr><td>2033</td><td>30,000</td><td>40,000</td><td>10,000</td></tr><tr><td>2034</td><td>30,000</td><td>40,000</td><td>10,000</td></tr><tr><td>2035</td><td>15,000</td><td>20,000</td><td>5,000</td></tr></tbody></table> <p>TOTAL : 196,000 Average : 19,600</p> <p>Where: ER = RE - PE ER = Expected GHG emission reductions/ removals RE = Reference Emissions PE = Project Emissions</p> <p>CDM 方法論(AM00x)を参照し、Baseline (BaU) 排出量を設定。本パートナー国の NDC 目標が BaU 比 30%削減であるため、BaU 排出量 7割をリファレンス排出量と設定し、この排出量とプロジェクト排出量の差を想定排出削減量として計算した。</p>		ER	RE	PE	2026	1,000	3,000	2,000	2027	5,000	8,000	3,000	2028	10,000	14,000	4,000	2029	15,000	20,000	5,000	2030	30,000	40,000	10,000	2031	30,000	40,000	10,000	2032	30,000	40,000	10,000	2033	30,000	40,000	10,000	2034	30,000	40,000	10,000	2035	15,000	20,000	5,000
	ER	RE	PE																																											
2026	1,000	3,000	2,000																																											
2027	5,000	8,000	3,000																																											
2028	10,000	14,000	4,000																																											
2029	15,000	20,000	5,000																																											
2030	30,000	40,000	10,000																																											
2031	30,000	40,000	10,000																																											
2032	30,000	40,000	10,000																																											
2033	30,000	40,000	10,000																																											
2034	30,000	40,000	10,000																																											
2035	15,000	20,000	5,000																																											

コメントの追加 [m16]: 〈年間の削減量の変動があまりない場合を除き〉排出削減量計算に必要な、リファレンス排出量とプロジェクト排出量の両方について、プロジェクト期間中の各年分を記入ください。その上で年平均値を記入ください。

リファレンス排出量については、承認方法論がある場合はその方法論を使って計算してください。承認方法論がない場合は、BaU（成り行き）量を下回り、かつパートナー国が、仮にクレジット全量を日本側に配分し相当調整を適用しても、なおパートナー国の NDC 達成に貢献することを説明できるよう設定してください。

（年間の削減量の変動があまりない場合を除き）排出削減量計算に必要な、リファレンス排出量とプロジェクト排出量の両方について、プロジェクト期間中の各年分を記入ください。その上で年平均値を記入ください。

リファレンス排出量については、承認方法論がある場合はその方法論を使って計算してください。承認方法論がない場合は、BaU（成り行き）量を下回り、かつパートナー国が、仮にクレジット全量を日本側に配分し相当調整を適用しても、なおパートナー国の NDC 達成に貢献することを説明できるよう設定してください。

新PIN様式の記入例・記入指針

8. Expected Mitigation Outcome (GHG emission reductions/removals)

(optional) Credits acquired by Japanese companies and/or government	60.7 %	例（定型文書なので英語）： Along with the JCM rules and guidelines, the percentage of JCM credit allocation among the project participants of Japan, the project participants of (Partner Country), the Government of Japan and the Government of (Partner Country) respectively. The preliminary allocation above is proposed based on the following standard formula: A percentage of JCM credits that Japan will acquire from a JCM project (%) = Amount of financial support from Japan x 100 / Total project cost = (1,150,000+420,000x5) / 5,350,000 = 60.7(%) (CAPEX 全額と OPEX の半額を負担する前提)
(optional) Credits acquired by partner country's companies and/or government <i>These reductions should be reflected in the partner country's GHG inventory</i>	40.3 %	
B. (optional) Expected GHG emission reductions/removals against Business-as-usual (BaU) emissions** <i>These reductions, excluding the amount of credits acquired by Japan, should be reflected in the partner country's GHG inventory</i>	28,000 tCO2eq/year (average)	例：CDM 方法論(AM00x)を参照し、Baseline (BaU) 排出量を設定。BaU 排出量とプロジェクト排出量の差の年間平均値。

* The reference emissions are established below BaU, in a manner that a proposed project contributes to the achievement of the NDC of a partner country.

コメントの追加 [m17]: 可能であれば現時点で想定されるクレジットの配分率を記入ください。
日本国政府による資金支援プロジェクトについては、初期投資額に対する資金支援額の割合を、日本への配分率とすることが基本となります。

可能であれば現時点で想定されるクレジットの配分率を記入ください。
日本国政府による資金支援プロジェクトについては、初期投資額に対する資金支援額の割合を、日本への配分率とすることが基本となります。
民間JCMについては、CAPEXやOPEXを合計したプロジェクトの総額に対する、日本側の負担額の割合を日本への配分率とすることが考えられます（特に初期投資額が少なく、プロジェクトにクレジット以外の収益がない場合）。

コメントの追加 [m18]: 可能であれば BaU 排出量からの削減量を記載下さい。例えば、CDM の方法論は BaU 排出量を計算する手法です。また現在排出している活動であれば、現在の排出量を BaU 排出量と見なすことも考えられます。

可能であればBaU排出量からの削減量を記載下さい。例えば、CDMの方法論はBaU排出量を計算する手法です。また現在排出している活動であれば、現在の排出量をBaU排出量と見なすことも考えられます。